

科目名	クラス	講義区分	科目ナンバリング	曜日	科目名	クラス	講義区分	科目ナンバリング	曜日
日本語教授法の基礎	<通期>		LAED1400	月2					

【教員氏名】  
有川 康二

【単位数】  
4 単位

【授業形態】  
『講義』『実習』『実務経験のある教員による授業①』（専門学校、ボランティア、米国の大学でTA、講師として日本語を教えた経験を持つ教員が、初級日本語文法やドリルの基本について解説、講義する。）

【講義・演習概要】  
どんな教授法（教え方の哲学や方法）、どんな教科書にも長所と短所があります。要は、様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用することです。 そのためには、何が長所で、何が短所になるのかを理解しておかなければなりません。例えば、語学学習の命であるドリル（稽古）に関していえば、機械的な形の練習だけでなく、より現実に近い状況や会話の十分な練習があれば長所と言えます。日本語の初級文法に焦点を絞り、（教師のための）実践的な文法整理と、（学習者のための）効果的なドリルの紹介やシミュレーションを行います。

【学習（到達）目標】  
一定の制限された状況（教室）や時間内（初級の集中コースとして例えば週15時間で約6か月）に、日本語を母語としない人に日本語文法全体の基礎的な体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習（ドリル）を行い、「使える日本語」を身につけてもらうためには、教える側に特別の知識と技術が必要となります。何語でもそうですが、ある言葉が母語としてべらべら話せることと、その言葉を外国語として学習する人に体系的、説得的に教えることのできる能力とは別物です。日本語の母語話者は日本語学習者と適宜に世間話はできますが、初級の学習者に日本語の文法や文パターンを効果的、説得的に教えることはできません。初級レベルで学習者が興味を失ってしまったら、それまでです。ある意味では初級レベルが最も難しいと言えます。文法の質問から逃げる日本語教師は学習者には信頼されません。また同時に、「何故、私は外国語を学ぶのか？何故、私は日本語を外国語として教えるのか？日本語を教えるという仕事を通して私には何ができるのか？」という問いを問い続けなくてはならないと思います。

【講義・演習計画】  
第1回：イントロ  
外国語教授法のイロハとは何か？ どんな授業がよいのか？ どんな教材が必要なのか？  
どんな仕事に就ける可能性があるのか？ 本学の先輩達は日本語教員資格を取得して  
どんな所で仕事をしているのか？  
第2回：指示表現（コソアド）(1)  
第3回：指示表現 (2)  
第4回：形容詞（イ形容詞／ナ形容詞）(1)  
第5回：形容詞 (2)  
第6回：存在表現（アル／イル）(1)  
第7回：存在表現 (2)  
第8回：時制（テンス）と相（アスペクト）(1)  
第9回：時制（テンス）と相（アスペクト）(2)  
第10回：保留形（テ形）(1)  
第11回：保留形（テ形）(2)  
第12回：願望の助動詞（ta/gar）(1)  
第13回：願望の助動詞 (2)  
第14回：可能の助動詞（e/(ra)re）(1)  
第15回：可能の助動詞 (2)  
第16回：様態・伝聞・推量の助動詞（アノばんハオイシソウダ／オイシイソウダ／オイシイヨウダ／オイシイラシイ）(1)  
第17回：様態・伝聞・推量の助動詞 (2)  
第18回：テイル・テアル・テオク（窓ガ開イテイル／窓ガ（ヲ）開ケテアル／窓ヲ開ケテオク）(1)  
第19回：テイル・テアル・テオク (2)  
第20回：授受表現（（テ）モラウ／イタダク、（テ）クレル／クダサル、（テ）ヤル／アゲル／サシアゲル）(1)  
第21回：授受表現 (2)  
第22回：態（受身（イジメラレル）・使役（イジメサセル）・使役受身（イジメサセラレル））(1)  
第23回：態 (2)  
第24回：条件表現（離婚シタラ〜／離婚スルナラ〜／離婚スレバ〜／離婚スルト〜）(1)  
第25回：条件表現 (2)  
第26回：敬語（オ話しニナル／オ話しスル／オッシャル／申ス／ナサル／イタス等）(1)  
第27回：敬語 (2)  
第28回：復習とQ & A  
第29回：復習とQ & A  
第30回：復習とQ & Aと試験

【成績評価の方法】  
試験評価：100%  
毎回の出席は前提です。筆記試験は、自筆ノートは持ち込み可です。丸暗記は不要です。何故そういう風に考えるのかというロジック（論理、辻褄）に集中してください。毎回、配付する質問コメント用紙（出席カードではありません）にいい質問やいいコメントをした人は、ボーナス点として加算されます。

【参考文献】  
三浦昭(1983)『初級ドリルの作り方』凡人社  
岡崎敏雄(1989)『日本語教育の教材-分析・使用・作成』アルク  
Makino, S. and Tsutsui, M. (1986) A dictionary of basic Japanese grammar-日本語基本文法辞典 . The Japan Times.

【事前および事後学習の指示（事前学習 60 時間 事後学習 60 時間）】  
本学には世界の様々な国から留学生が来て日本語や日本文化について勉強しています。留学生の人たちと話をしてみてください。

【その他備考（担当教員用）】  
授業で、Makino and Tsutsui (1986)と三浦 (1983)から抜粋した関連項目のプリントを配布しま

す。